

巻頭言

コロナ禍から見えてきた 社会に必要不可欠な労働の価値

利根川 徳 (協同総合研究所専務理事)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大はいまだに続いており、先行きは不透明だが、コロナ後の世界はそれ以前とは違う世界になるだろうと様々な人たちが語りはじめている。コロナ後についての論点は、おもに国家及び国際的な政治や経済における変化とその危険性や可能性について述べたものであるが、ここでは今回のコロナ禍を通して可視化されてきた、社会に必要不可欠な労働の価値が不当に低く評価されているという「不都合な真実」に焦点をあてて考えてみたい。

文化人類学者のデヴィッド・グレーバーは、テクノロジーの進化が無意味な必要のない仕事「Bullshit Jobs(ブルシット・ジョブ)」を生み出していると指摘している。Bullshitを直訳すると「牛の糞」だが、「意味のない仕事」「どうでもいい仕事」といった意味だ。

グレーバーが出会った管理職の多くが、「自分はたいした仕事をしていない」「自分の仕事は社会的な価値がない」と感じていたことから、この言葉を思い付いたそうだ。彼は「ブルシット・ジョブ」として、受付係、秘書、企業弁護士、電話営業、広報、苦情対応、コンプライアンス部、中間管理職などの仕事を挙げて

いるが、こうした仕事は消えてしまっても困らないし、むしろ社会はよくなるかもしれないと言う。

実際に、イギリスの調査会社がグレーバーの言葉を引用して行なった調査によると、「自分の仕事は社会に意味のある貢献をしているかどうか」という質問に対して、37%が「まったくしていない」、13%が「わからない」と答えている。「貢献している」と回答したのは50%だった。

ところが、こうした「ブルシット・ジョブ」に就いている人たちは一般的に高給取りであるのに対して、バスの運転手、看護師、清掃係といった直接社会の役に立つ労働をしている人は低賃金である。グレーバーは、オートメーション化が進めば進むほどに、病院や認知症の人などの世話をする「Caring Labor(人の世話をする労働者)」の仕事が重要になってくるはずで、「Caregiving(ケアの提供)」の考えを労働における主要な要素に据えた労働観へのシフトを説いている。

誰もが薄々気づいていたがあまり問題にして来なかった、この労働の価値に関する矛盾が、今回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う非常事態宣言、経済活動の制限の中で可視化されることになった。

ブレイディみかこは、東京新聞「社会時評」で、厳しいロックダウン下の英国で、リスクを冒して働き続けている「キー・ワーカー（地域に必要不可欠なサービス従事者）」と呼ばれる職業（医療従事者、警官、教員、保育士、介護士、公共交通機関職員、スーパー従業員など）の年収がシュールなほど少額であると指摘している。緊縮財政により病院のベッド数を減らし、人員削減を進めてきたために、英国は医療崩壊の危機に見舞われているが、平時のゆとりこそが緊急時の対応力につながるわけで、これまで不当に過小評価されてきた「キー・ワーカー」への投資が必要であると呼びかけている。

斎藤幸平は『群像』6月号で、「価値と使用価値の矛盾」としてこの問題を説明している。感染を防ぐために、できるだけ外出を控え、在宅勤務を行うように政府は要請するが、ゴミの回収、商品販売、介護・保育などの仕事は在宅ではできない。社会にとって必要不可欠な仕事に関わる労働が生み出す「使用価値」は大きいですが、資本主義のもとでは、こうしたケア労働は生産性が低く、「価値」も低いとみなされ、低賃金・長時間労働を強いられている。結果として、「使用価値」をほとんど生み出さない「ブルシット・ジョブ」が高給であるために、危機の時に必要不可欠なケア労働が恒常的な人手不足になっていると指摘する。

まもなく「労働者協同組合法案」が国会に提出される。地域の困難に立ち向かう労働者自身が主人公となる協同組合の登場が、この社会における労働の価値を見直す契機となることを期待したい。

日本労協連ホームページに「ワーカーズコープは、働く人びとや市民がみんなで出資し、経営にみんなで参加し民主的に事業を運営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事を自分たちでつくる協同組合」であると紹介されている。実際に、労協連加盟組織が担っている事業分野を見ると、清掃、物流、介護、保育、障害者福祉、自立支援、食、エネルギーなどまさに社会に必要な仕事ばかりである。

労働者協同組合を設立しても、低賃金の労働者が増えるだけではないかという質問を受けることがあるが、その指摘が見当違いであり、社会に必要な仕事における労働の価値をもっと高める必要があることがおわかりいただけると思う。

参考文献

大野和基インタビュー・編『未完の資本主義』PHP新書2019

ブレイディみかこ「医療従事者ら低所得で激務 彼らにこそ投資を」東京新聞(夕)2020.4.14

斎藤幸平「コロナ・ショックドクトリンに抗するために」『群像』2020.6